

しらかば

第83号

令和元年
(2019年)
12月



北海道対がん協会ホームページ

公益財団法人 北海道対がん協会

北海道札幌市東区北26条東14丁目1-15 Tel (011) 748-5511 Fax (011) 748-5512 <https://www.hokkaido-taigan.jp/>

公益財団法人北海道対がん協会 創立90周年記念フォーラム

公益財団法人北海道対がん協会 創立90周年を祝う 記念フォーラムを開催

開催：令和元年7月28日(日) 13:00~16:00
会場：ホテルポールスター札幌 ポールスターホール
参加：約310名

北海道対がん協会は、昭和4年に全国で最初の対がん協会として設立し、本年、創立90周年という記念の年を迎えました。

この記念すべき年を契機に、広く道民の皆様に対し、がん及び生活習慣病の正しい知識と検(健)診の重要性などについて、より一層の普及啓発を図ることを目的に、創立90周年記念フォーラムを開催いたしました。

開会にあたり、当協会長瀬会長から、今日までがん対策の推進を担い、道民の皆様の健康保持、増進に寄与できましたことは、一重に道民の皆様はもとより、北海道をはじめ市町村や北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学、北海道がんセンター等の行政、医療機関のご支援、ご協力の賜であると、心からの感謝を述べました。



長瀬会長

来賓挨拶として、公益財団法人日本対がん協会の垣添忠生会長から「90年前に対がん協会を設立したことは先見性のある取組みであった。今後とも広大な北海道で検(健)診事業の展開は大きな困難も伴うが、北海道対がん協会の皆様なら乗り越えられると思っている」と、今後の北海道対がん協会の活躍を期待する旨のご挨拶をいただきました。

来賓挨拶として、公益財団法人日本対がん協会の垣添忠生会長から「90年前に対がん協会を設立したことは先見性のある取組みであった。今後とも広大な北海道で検(健)診事業の展開は大きな困難も伴うが、北海道対がん協会の皆様なら乗り越えられると思っている」と、今後の北海道対がん協会の活躍を期待する旨のご挨拶をいただきました。

続いて、中野祐介北海道副知事から「がん予防、治療や調査研究事業などを柱に長年にわたり多大な尽力をい



日本対がん協会 垣添会長

ただいている。北海道としても北海道がん対策推進条例の理念を基にがん予防やがん検診の受診促進、がん医療提供体制の整備など、今後がん対策に積極的に



中野 北海道副知事

取り組んでいく。」と、北海道対がん協会への謝辞と今後のがん対策の推進に向けたご挨拶をいただきました。

●記念講演

演題：がん医療 最前線

講師：国立研究開発機構国立がん研究センター
理事長 中釜 斉 氏
座長：北海道大学大学院医学研究院
教授 坂本 直哉 氏

国立研究開発機構国立がん研究センターの中釜理事長をお招きし、また、北海道大学大学院医学研究院の坂本直哉教授に座長をお願いして、「がん医療 最前線」と題して、がんの現状、予防、最新治療について講演いただきました。

年間100万人が「がん」に

最初に、日本では年間100万人の方が新たにがんと診断され、約37万人以上の方ががんで命を落とされているが、現在、多くの部位



国立研究開発機構国立がん研究センター
中釜理事長

で5年生存率が60%以上と年々上昇していることが話されました。一方、膵がんなどは5年生存率が10%を切っている現状の中、現在、効果的な膵がん検診の実用化に向けて北海道対がん協会の協力を得ながら、血液中にあるapoA2という特殊なタンパク質を検査することで早期に膵がんや膵がんを引き起こす可能性が高い疾患を検出できるという臨床研究を進めていると、新たな検査方法の開発の展望についても言及されました。

課題はたばこ対策と感染症対策、そして検診へ

一次予防として、たばこ対策、感染症対策（ピロリ菌、肝炎ウイルス、HPV等）は最優先課題であること、二次予防として、がん検診の受診について、早期発見が期待でき重要であることが話され、そうした中、5つの対策型検診において、受診率が50%にも満たないと、受診率が低い現状の打開の必要性について強く訴えられました。更に一次予防で、がんを予防し、二次予防で、がん検診を受診し早期発見できれば、死亡率低下に繋がると力説されました。

医療の進歩を解説

がんに罹患した場合の治療法として、手術療法、放射線療法や薬物療法など多くの治療法について解説され、手術療法では患者の負担が少ない内視鏡の治療が

新たな方法として投入されたこと、放射線治療では病変だけに集中して放射線を当てることができるようになったこと、また、薬物療法では副作用が軽減される治療薬が開発されてきたこと、更に、ゲノム医療では遺伝子検査を行い効果的にその人にあった治療薬を選択できるようになったことなど、医療の進歩により20年前と比べると劇的に効果をもたらしていることについて、実例を用いながら解説されました。

みんなで作り上げるこれからのがん医療

がんは、全体の6割が治療可能であり、4割は治療が難しい状況だが、一次予防と二次予防を行うことで、4割のうちの約半分は救うことができること、そして、残りの半分は医療者と患者を含めた日本中が協力しながら、治療情報をがん診療連携拠点病院が中心となり、蓄積、共有しながら、研究、開発等に使用できれば、新しい治療法の確立などが期待できると、近い将来のがん医療について述べられました。

●パネルディスカッション

テーマ：これからの

がん・生活習慣病予防の展望

パネリスト：公益財団法人日本対がん協会
会長 垣添 忠生 氏
北海道保健福祉部健康安全局
局長 竹縄 維章 氏
国立病院機構北海道がんセンター
院長 加藤 秀則 氏
北海道大学大学院医学研究院
教授 玉腰 暁子 氏
公益財団法人北海道対がん協会
札幌がん検診センター
所長 河原崎 暢
コーディネーター：医療キャスター
松本 裕子 氏

コーディネーターとしてUHB北海道文化放送の医療キャスターである松本裕子さんの進行により、「これからのがん・生活習慣病予防の展望」と題して、全国の立場と北海道の医療、検診機関、生活習慣病の専門、行政のそれぞれの立場から、これからのがんや生活習慣病がどのようになっていくかについて、各パネリストからご意見、ご提言をいただきました。

全国状況と北海道におけるがんの現状

日本対がん協会の垣添会長から、全国でのがんの罹患状況等と全国的には大腸がんが多いことなどが述べられ、北海道がんセンターの加藤院長からは、全国から見て北海道はがんの罹患率、死亡率が高いこと、そ

して、喫煙率が高く、肺がんの罹患率、死亡率ともに男女とも全国1位である現状について述べられました。

たばこ対策と食生活の改善、 検(健)診では市町村の対策が重要

一次予防の重要性について、北海道大学の玉腰教授と北海道保健福祉部健康安全局の竹縄局長から生活習慣に関して述べられ、特に北海道は喫煙率が高く、たばこは肺疾患、肺以外のどの部位にも影響をもたらすこと、また、受動喫煙防止も重要で、北海道では受動喫煙防止条例制定に向けて取り組んでいること、加えて、北海道は野菜の摂取量が少ないことなど、食生活改善の必要性などについて力説されました。

二次予防では、当協会札幌がん検診センターの河原崎所長から、北海道対がん協会では道内市町村の80%以上の巡回検診を行っており、全道を検診車で回り受



診率の向上に取り組んでいること、さらに、精度管理として、医師2名による画像の二重チェックや過去データ

との比較、また、学会や研修の受講など医療従事者の研鑽など、高い水準の精度管理について維持、向上を図っていることを述べました。

また、各パネリストからは、がん検診の受診率が低いこと、がん検診受診後の精密検診未受診者をどう受診させられるかなどの課題が出され、今後に向けて受診勧奨、コールリコール等、市町村の取り組みや市町村と検診機関がしっかり精度管理を行うことが大切であるとの提言が出されました。

がん治療は個別化に、 肺がんでは新たな検査を試験的に実施

三次予防として、加藤院長からがん治療が「個別化治療」の時代になってきていることについて解説され、特にゲノム医療では遺伝子パネル検査が行われはじめていること、現時点では治療薬が見つかる人は10～20%とまだ低い状況であるが、データの蓄積を行い、将来的に生存率を上げていくことに期待できることを力説されました。

また、河原崎所長か



らは、肺がんに関して、早期発見、早期治療に繋げ、生存率を上げる取り組みとして、北海道対がん協会が日本対がん協会と連携、協力し、apoA2というタンパク質を調べるバイオマーカー検査を臨床研究として実施していることを紹介されました。

パネリストからの意見、提言

垣添会長「医学の進歩で治せるがんも増えてきているが、その分医療費も高額化してきている。一次予防と二次予防で防ぐことが最も合理的。」

加藤院長「最近は早期で発見されるがんも増えていますが、反面、助けられるかどうかわからない人もいます。病院としても検診を受けて早期のうちに、笑って帰っていただきたい。」

玉腰教授「がんにならないことが一番大切。一次予防として、たばこをやめることと、たばこを吸い出さないためのがん教育が大事。同時に二次予防を進めていかなければいけない。」

竹縄局長「禁煙や食事、がんを予防する生活習慣を送り、検診受診から早期発見、適切に治療に繋げることが大事。道としても北海道がん対策「六位一体」協議会（がん患者、医療関係者、企業、マスメディア、議員、行政からなる団体）の構成メンバーとともに、対策を着実に進めていきたい。」

河原崎所長「検(健)診機関としては日本の検(健)診受診率の低さが気になる。日本の医療は世界一になっているので、これからは検(健)診で重篤化する前に病気を発見し治療に繋がればと思っている。」

まとめとして、パネリストの皆さんから、たばこ対策や生活習慣の改善（一次予防）を行い、検(健)診を受け（二次予防）、がんの早期発見、早期治療につなげることが重要とのご意見、ご提言をいただきました。

●創立100周年にむけて ～「創立90周年記念フォーラム宣言」



最後に、当協会職員を代表して、札幌がん検診センター事業管理課の福田唯主事から、これから10年後の創立100周年に向

け、道民の皆様方が心身ともに健康で、心豊かに生活を送ることができる社会の実現を目指し、引き続き正しい知識の普及や啓発、調査研究、がん検診の精度や受診率の向上に努め、がんや生活習慣病による死亡を更に減少させていくことについての決意を宣言いたしました。

令和元年度 がん及び生活習慣病 対策推進会議

がん及び生活習慣病対策推進会議は、次年度の検(健)診事業計画を円滑に推進するため、北海道と共催で、保健所・市町村・事業所関係者を対象に開催しています。

今年度も前年同様、札幌・旭川・釧路・帯広の4会場で実施し、78の市町村等から140名に及ぶ多くの皆様にご出席をいただきました。

北海道からは、道内のがんと生活習慣病の現状について、データで解説がありました。

特に、特定健診は年々受診率向上しており、市町村の改善努力が見られるが、がん検診においては、人口等による影響もあるものの伸び悩みが見られるとし、受診率向上の対策として、厚生労働省が発信しているナッジ理論を紹介し、さらにソーシャルマーケティングの手法を活用した勧奨資材の活用を推奨されました。

また、精度管理向上のため、プロセス指標を用いた質の管理の重要性を説明し、「事業評価のためのチェックリスト」の内容を遵守するよう伝えられ、さらに、

改善にあたっては検診機関と協力して、改善を図ることを勧められました。

江別市からは行政の取り組みとして「総合予約システムを活用した今後の検(健)診のあり方について」と題し、平成30年度より検(健)診受診率の向上と保健師業務の軽減を目的とした、ウェブと電話による受診勧奨から予約受付をトータルパッケージとして日本ATMヒューマン・ソリューションが提供する総合予約システムを導入した結果、平成29年度の集団検診受診者数が約3,800名であったものが、システム導入後の平成30年度には約4,000名の方が受診し、受診率では約4.1%増加したこと、また、電話予約受付業務も同システムで担うことができ、市の保健師が中心に保健センター職員が行っていた予約電話対応もなくなり、保健師の本来業務である市民対応に専念できるようになったこと、そして時間外勤務も30%減少することができ、今年度は、フルタイムの嘱託事務職員を1名減とすることができるなど、財政面でも大きく貢献することができたとの報告がありました。

当協会からは、平成30年度の検(健)診実施成績の報告と次年度の検(健)診計画立案に関するお願いのほか、巡回による乳房超音波検査及び子宮がん検診実施時のHPV併用検診現状と実績について報告しました。

また、がん検診実施にあたっては、「事業評価のためのチェックリスト」に基づき実施し、精度管理に努めていること、「プロセス指標」については、各がんとも目標値をクリアしており、日本対がん協会グループ42支部の中で、上位に位置し、高い水準を維持していることも併せて報告しました。

なお、各会場における講演については、左記のとおりです。



江別市からの報告

【報告事項】 1. 北海道からの報告 ・北海道におけるがんと生活習慣病の状況について 2. 北海道対がん協会からの報告 ・令和2年度検(健)診の実施計画について ・がん検診の精度管理について ・HPV・乳房超音波の実施体制について ・行政の取組紹介(江別市の事例) ※札幌会場以外	
令和元年10月16日(水) 13:00~16:30 ホテルポールスター札幌 2Fセレナード	【講演】 「乳がん治療最前線から紐解く 乳がん検診の今後の方向性」 国立病院機構北海道がんセンター 副院長 高橋 将人 医師 【行政の取組紹介】 江別市の事例 「総合予約システムを活用した 今後の検(健)診のあり方について」 江別市健康福祉部保健センター 管理係 眞鍋 慎治 係長
令和元年10月24日(木) 13:00~16:10 大雪クリスタルホール 2Fレセプション室	【講演】 「検診で見つかる肺がん」 旭川大学病院呼吸器センター 教授 大崎 能伸 医師
令和元年10月28日(月) 13:00~16:10 帯広市役所5階 5B会議室	【講演】 「がんの最新情報」 (公財)北海道対がん協会釧路がん検診センター 所長 松浦 邦彦
令和元年10月29日(火) 13:00~16:10 釧路がん検診センター	【講演】 「がんの最新情報」 (公財)北海道対がん協会釧路がん検診センター 所長 松浦 邦彦

第51回 がん予防道民大会

令和元年10月11日（金）、たきかわ文化センターにおいて、第51回がん予防道民大会が開催されました。

この大会は、道民に対してがんに関する正しい知識の普及を図ることを目的に、例年、道内の市町村で開催しているものですが、本大会は、地元滝川市民をはじめ、全道各地から約850名の参加を得て、成功裡に終えることができました。今年は滝川西高校、滝川工業高校の生徒、滝川市立高等看護学院の学生が参加し、がんについて学びました。

がん予防功労者表彰では、がんに対する正しい知識の普及啓発やがん検診の受診促進に功績があった士別市、砂川市、滝川市在住の柴田直美氏の2団体1個人に対して北海道対がん協会から表彰されました。また、優良がん対策推進企業として、(株)東海日動パートナーズ北海道、北海道コカ・コーラボトリング(株)が、北海道から表彰を受けました。特別講演では、国立病院機構北海道がんセンター院長加藤秀則先生から、「予防できるがんもあることを知る。そして新しい時代のがん治療についても知ろう」と題して、がんの基礎知識や最新医療などについて講演いただきました。また、健康講話では、NPO法人がんノート代表理事岸田徹氏が「25歳でがんになって Think Big ～がんが教えてくれたこと～」と題し、自身のがん体験が語られました。

来年度のがん予防道民大会は、10月16日（金）に北見市の北見市民会館で開催予定です。



日 時：令和元年10月11日（金）13：00～16：00
主 催：北海道・滝川市・（公財）北海道健康づくり財団・（公財）北海道対がん協会
表 彰：がん予防功労者表彰 士別市、砂川市、柴田 直美
優良がん対策推進企業表彰 (株)東海日動パートナーズ北海道、
北海道コカ・コーラボトリング(株)
特別講演：演 題 「予防できるがんもあることを知る。
そして新しい時代のがん治療についても知ろう」
演 者 国立病院機構北海道がんセンター院長 加藤 秀則
健康講話：演 題 「25歳でがんになって Think Big ～がんが教えてくれたこと～」
演 者 NPO法人がんノート代表理事 岸田 徹



特別講演



健康講話

第52回 北海道家族の健康をまもる講習会

令和元年7月4日（木）～5日（金）の2日間、国立大雪青少年の家（美瑛町）において、第52回北海道家族の健康をまもる講習会を開催いたしました。

この講習会は「健やかでいきいきとした生活を送るために」をテーマに健康に関する正しい知識をより一層深くするとともに、各地域の親善交流を図り、もって家族の健康をまもる地域保健活動を円滑にすることを目的として年1回開催しております。

主催は北海道健康をまもる地域団体連合会・北海道食生活改善推進員協議会・公益財団法人北海道結核予防会・公益財団法人北海道対がん協会、共催は札幌市食生活改善推進員協議会、北海道が後援となっています。

今回は6団体から83名の参加者がありました。

講習会初日では、レクリエーションと全体交流会が行われ、参加者同士の交流と親睦を深めました。レクリエーションではパークゴルフ、青い池へのハイキング、施設内ではバッジ作りを行いました。

全体交流会では各団体紹介、結核予防会と北海道対がん協会の事業説明を行い、また、「あなたの地域の健康づくりの工夫」として、それぞれの地域の実情、地域ならではの活動等の報告を行い、最後に全員で花笠音頭を踊り親睦を深めました。

2日目は講師を招き、2講演が行われました。1講演目は、公益財団法人結核予防会国際部の後藤眞喜子氏から「結核予防会の国際協力～ザンビアのコミュニティ活動」として、ザンビアで交際協力を通じた取組みについて話されました。2講演目は、当協会札幌がん検診センターの河原崎暢所長から「日本のがんの現状及び生活習慣病と検診から見た予防方法」と題して、北海道のがんの現状や検診の大切さについて話されました。

来年度は第53回となり、令和2年7月9日（木）～10日（金）の日程で開催予定です。地域保健活動にご興味のある方であれば、どなたでも参加できます。詳しくは事務局までお問い合わせください。



参加者集合写真

北海道がん対策基金助成事業情報

令和2年度 北海道がん対策基金助成事業の募集を予定しています

毎年、助成事業の募集を行っており、令和2年1月中旬から次年度事業に対する募集を予定しています。

市町村、企業や団体の皆様からのがん患者等への支援等、次の支援等の事業を募集しますので、皆様の応募をお待ちしています！

【対象としている事業】

- がん患者やその家族の方々への支援事業
- 小児がん患者・がん教育への支援事業
- がんに関する情報提供や普及促進事業
- がん検診の受診促進・予防対策に関する事業
- その他別に認められた事業

これまで、25事業に対して、総額8,085,000円を助成しています。

【参考：今年度はこんな事業に助成しています】

- がん教育への支援 … がん患者によるがん教育講師派遣システムづくり事業
 - がん情報提供 … 受動喫煙&がん予防フォーラム
 - がん検診受診促進 … ピンクリボン in SAPPORO 2019
- ※今年度は、上記の他、がん教育等3事業を含め全部で6事業に助成しています

募金状況

10月31日現在の累計募金状況は

24,975,526円

引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

募 金 内 訳		
個人	82件	5,666,696円
企業・団体等	459件	10,714,118円
自動販売機	189件	7,380,446円
募金箱	168件	1,214,266円
合 計		24,975,526円

お問い合わせ〈事務局〉

- 公益財団法人 北海道対がん協会 経営管理部企画課
TEL (011) 748-5518
- 北海道保健福祉部健康安全局地域保健課 がん対策グループ
TEL (011) 204-5117